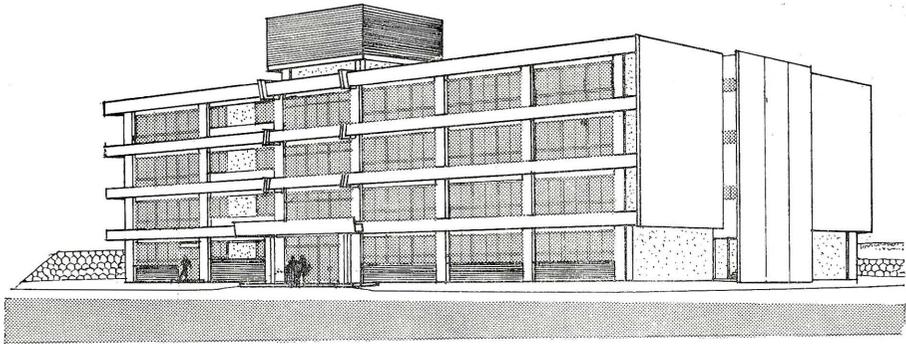


新図書館着工さる



西南学院大学新図書館完成予想図

久しく待たれた新図書館の建設は、いよいよ実現の運びとなり、この12月16日(土)に関係者の参列のもとに起工式が行われた。新図書館は、大学2号館の東側に、鉄筋4階建、総面積3,592.9㎡(1,086.8坪)の規模でもって建てられる。

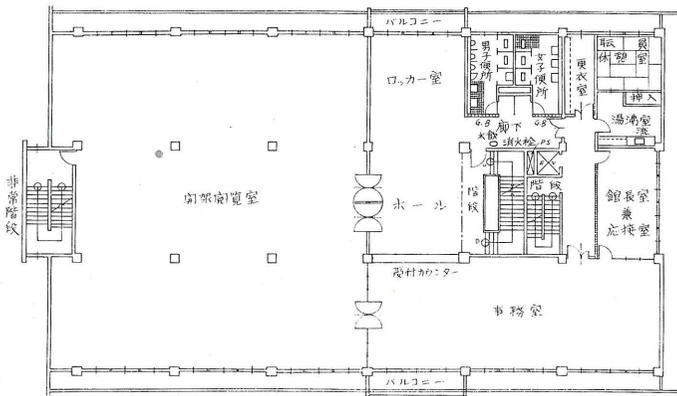
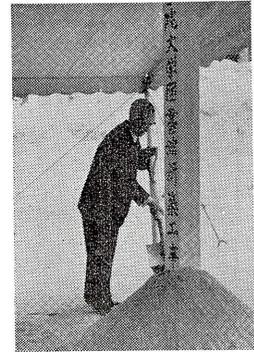
この大きさは現在の図書館の約2倍半であって、座席数が480席、図書収容能力が20万冊と、これらも現状のほぼ2倍に拡大される。もちろん、この程度では急激に膨脹する学生数と図書冊数をカバーするのに決して充分な大きさとはいえないが、とりあえずこれで発足して、やがて第2期工事として5階と積層式書庫が増築される予定になっており、これが完成のあかつきには、座席数600席、図書収容能力50万冊の堂々たる大図書館が出来上がる計画である。昭和29年に建てられた現在の図書館は、当時としては相当の余裕を見込んで作られたものであったが、その後の大学の急激な発展のために、既に場所的に狭いものと化してしまった。座席数は文部省の定める基準(学生定

員の割以上)をはるかに下廻り、書庫は図書が溢れて全く余裕が無い状態になってしまった。そこで数年前から新図書館の建設が叫ばれるに至り、図書館建築計画委員会が設置されてその具体的な案の作成に当ることとなった。一時は、現在の図書館とランキン・チャペルとの間に建築しようとの意見が支配的で、図面も何度かひかれたのであるが、将来の増築の余地が少いとの理由から結局2号館の東側に着いたのである。また、図書館の果すべき機能としても、単に従来の活動を踏襲するといったことではなく、これまで図書館と研究所に二分されていた図書資料の集中一元化、あるいは官公庁・銀行会社などの統計資料の調査収集など各方面の要望に応える活動を始めるとともに、利用面の画期的な前進を図るためにレファレンス・サービス(参考調査業務)、複写サービスなどの積極的奉仕活動を拡充展開してゆかねばならない。これは利用を第一義とする近代図書館の活動として当然のことであって、〔次頁へ〕

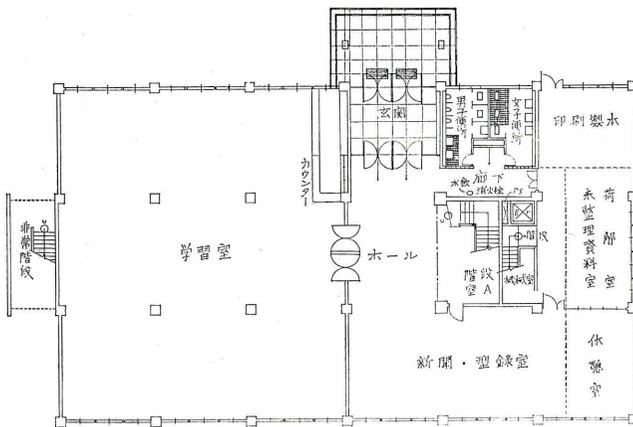
〔前頁より〕 これらの積極的な機能を果たするためにはそれに相応した施設と設備が必要となるので、新図書館はその意味でも一日も早い建設が待たれたのであった。

それでは、新図書館の内部はどのようなになるのか。下の図面を見ていただきたい。まず1階には学習室と新聞・目録閲覧用ホールがあって、ここには携帯品を持ったまま自由に入出入りすることができる。一方2階3階の開架閲覧室へ行くには、従前どおり、携帯品をロッカーに納め、学生証を提出するなどの手続きが必要である。新図書館はこのように学習室と開架閲覧室と二つの部分を分けたところに特色がある。しかし、1階の学習室は自由に入出入りできるといっても、全く野放しの集会室と化してはならないのであって、それはあくまで学生が静かに自学自習する場でなければな

らない。従って、学習室にはカウンターを設けて係員をおき、一部の辞書や、新刊書それにリザーブ・ブックなどを備えて学生の十分な学習ができるようにするつもりである。次に2階の開架閲覧室は、その一部を雑誌閲覧コーナーにするとともに、辞書類、指定図書など最も利用率の高いものがおかれることとなる。館長室・事務室など事務の中心部分もこの階にある。3階は従前の開架図書を並べた開架閲覧室のほか、休憩室、視聴覧室、複写室などが配置される。それから4階は、閉架図書室、資料室、教授閲覧室など研究者専用部分にあてられる予定である。



2階



1階

将来増築される積層式書庫は、この新館の東側にできるから、閲覧室と書庫との中央部に事務部分が配置される形となるわけで図書運搬用のエレベーターの採用とともに、事務能率の向上にも充分な配慮が払われているのである。こうして新図書館が、本学の発展にもなった規模と機能を備えて新しくデビューする日も間近かい。大学において図書館の占める重要な意義を思うとき、このようにして新図書館が与えられるようになったことは、限りない喜びであるとともに、このことに大きな御理解と御努力を賜った理事者ならびに関係者の方々に深い感謝を捧げるものである。



製本の話

図書館が活発に利用されればされるほど、製本の必要度は高まるものであるが、とくに本館では開架図書の損耗による修理製本が最近めだつて多い。本館が開架制度を採用して既に十数年になるので、当時からの開架図書は相当にいたんできて、その大部分が修理補強の必要に迫られているものと思われる。この頃は製本代もばかにならず、本綴（ホンカガリ）ならA5版（中央公論のサイズ）でも約700円、B5版（週刊誌のサイズ）になると800円程度にもなるから、却って新本を購入したほうが安くつく場合も少くない。

図書館の製本には通常3種類のものが考えられている。(1)図書が破損した場合の改装ないしは修

理、(2)逐次刊行物の合冊製本、(3)紙装本などの事前製本であるが、最後の事前製本は極めて稀にしかない。このような図書館の製本を引受ける業者のことを一般に諸（モロ）製本業と称んでいるが、諸製本業者の数は大変少く、福岡でもほんの数えるほどであるため、製本に要する期間が長くなって、研究者から苦情を頂戴することも屢々である。製本のとじ方としては、本綴式と打抜（ウチヌキ）式とあって、打抜式の方が単価が安くつくため、普通この打抜式にしてしまうのであるが、これはあとの開き具合が悪く、ために読みにくくなったり、複写がうまくゆかなかつたりすることがあるので注意が肝要である。このほか図書館自体でも製本をやっており、技能の点では劣るが、価格が安上りにつくので、資料の種類によっては重宝である。最近は、簡易製本材料といったものが市販されており、素人でもかなりの出来ばえに仕上げることができるようになった。

* 図書館の文献複写サービスについて *

図書館では複写の設備が既に一般化され、文献複写の仕事は図書館での主要なサービスの一つとなっている。図書館の資料の利用は館内閲覧と館外貸出の二つの方法がとられているが、辞書や新着雑誌などは概ね館外持出禁止となっているから、その散逸を防止したり、切り取りなどの事故を防ぐ効用があるばかりでなく、自館に所蔵していない文献を他館から極めて容易に入手利用することを可能ならしめる便があるので、文献複写は今後益々利用されてゆくこととなるだろう。最近の図書館ではとくに情報の迅速な伝達が重要視されてきて、その方法として複写の果たす役割が無視できなくなっている。大学図書館や専門図書館は最新式の複写設備をそなえてその要求に応じなければならない。

もちろん、本館でも教職員や学生の研究用の文献複写サービスを実施している。ついこの間のことであるが、ある図書館委員の方から、「図書館で文献複写を引きうけているとは知らなかった。」と言われて全く驚いた。燈台もと暗しの響もあるように、PRが不足しているためと思い、深く反省している。本館で行なっている複写は次のとおりであるから、今後充分ご利用をお願いしたい。

①ゼロックス 各サイズとも 一枚25円

いつまでも変色しないので極めて便利。現在大部分

の複写はこれによっている。

②一般ポジ（トーコーブ） A5 1枚15円
B5 1枚20円

暫くすると変色するので、現在は余り活用していない。

③透明ポジ（リコピー用原紙作成） A5 1枚20円
B5 1枚25円

複写部数が5,6部のときは、これでリコピーの原紙をつくり、あとリコピーで複写すれば大変安価である。

告知板

- 冬休長期貸出 12月15日(金)から1月16日(火)まで2冊の長期貸出を行っています。
- 試験期の夜間開館延長について きたる1月26日(金)から後期試験のための夜間延長開館を行います。開館時間は、午前8.30～午後9.00で、試験終了の前日まで実施します。
- 春休長期貸出予告 2月10日(土)から2冊以内の長期貸出をします。期限は、卒業年次生は2月末日まで、それ以外の学生は4月20日までです。
- 卒論特別貸出の返却期限 1月11日(木)
- 仮帯出手続について 図書の館外貸出に必要な帯出証を忘れてくる人がありますが、それでも是非その日に借りたい人のために一時学生証を預かって館外貸出をする便法を認めることとしました。ご利用ください。

■ ニュース

＜新図書館起工式＞

42.12.16 午後12時30分より大学2号館東側、大学図書館建築現場において関係者参列のもとに行われた。

式次第

司式 図書館長 坂本重武

1. 讃美歌 445番(御神と共に) 一同

1. 聖書・祈禱 宗教部長 猪城博之

1. 式辞 院長・学長代理 E・B・ドージャー

1. くわ入れ 理事長 木村文太郎

1. 校歌 一同

1. 祝禱 理事長 木村文太郎

＜図書館委員会＞

42.9.25 新図書館の建築について

42.10.26 昭和43年度図書館予算案について

42.12.16 図書の事故について、その他

＜図書館協議会・研修＞

文部省大学図書館職員講習 42.10.3～6

(於京都大学) 参考図書の構成・二次刊行物の利用法について研修 山下司書長出席。

私大西南地区研究会 42.10.5 (於久留米大学)

坂口出席。

全国図書館大会 42.11.8～10 (於石川県立図書館) 坂本館長出席。

福岡地区研究会 42.12.11 (於九州産業大学) 品川出席。

＜人事＞

図書館長に文学部坂本重武教授が再選された。任期は43年1月から44年6月まで

新図書館委員 (任期43年1月～44年6月)

神学部

G・H・ヘイズ

卒業後の利用手続

本学卒業生は、一定の手続きを経て、図書館を利用することができます。次の手続きに従って研究・調査・教養向上などに大いに利用してください。

① 利用希望者は、特別利用者規則の定めるところに従って、次に掲げるものを提出しなければなりません。

特別利用許可願1通、卒業証明書または勤務先証明書その他本人の身分を証明するに足る書類1通、上半身名刺型写真1葉、その他館長の必要と認める書類、手続料金 100円

② 手続きを完了した者には特別利用者証(1カ月間有効)が交付されます。

③ その他は学生利用規則が準用されますから、在学中の手続きと変わりません。

文学部(専門課程)

大森 衛

商学部

山口 稻生

経済学部

大崎 正治

法学部

西山 雅明

教養部

武田 雄一

短期大学部

森川 和子

■ 学生用図書に文部省の補助

昭和42年度から学生用図書の購入について文部省の補助が受けられることとなった。「私立大学理科等教育設備整備費補助金」というのが正式の名称であるが、必ずしも理科だけに限るのではなく学生用図書であれば全ての部門にわたることができる。本年度は約55万円の補助が内定した。

■ 辞典類の切り取りについて

大変残念なことに、最近商経関係をはじめとする多数の辞典が切取られました。この図書館が学生諸君の勉学の便宜のために、オープン・システムを採用していることはご承知のとおりですが、この自由な制度は全く利用者の良識と徳義心に支えられてはじめて維持できるものです。一部の心ない人の行為によって我々の図書館が荒らされるのは本当に悲しむべきことだと思います。このような恥ずべき事故が絶滅するよう、図書館としてもできるだけの対策を講じたいと思いますが、学生諸君もどうかご協力ください。とりあえず事故にあった辞典は、事務室に引込めていますが、補修に要する期間利用ができませんし、補修後も暫らくは事務室に備付けて、リザーブ図書と同様の手続きで読んでもらうこととなります。

■ 寄贈図書

○総理府統計局より 事業所統計調査報告 他43冊

○地質調査所より 内之浦地域の地質 他3冊

○福岡県より 福岡県の工業 他1冊

○福岡県警察本部より 交通年鑑 41年度版

○福岡放送局より NHK年鑑 '67

○北海道開発庁より 落合(5万分の1地図) 他5冊

○明治学院より 明治学院90年史

○田尻守重氏より 剣道教典

○川上太郎教授より 法律哲学原理 他和書 711冊

洋書 42冊 雑誌 多数

○大森衛助教授より 生活設計入門

○太田和男助教授より 初級新フランス語コース

○山村延昭助教授より 不当利得論 他28冊

○井上忠教授より 藍田谷口先生全集 他12冊

■ あとがき

未整理の本の山に埋って足の踏み場にも困るような事務室、次々と整理しても、今度はそれを収容する場所が無いといった状態の中で、待ちに待った新図書館の起工式を迎えることができた。この記事を中心とした本号を喜びと感謝をもっておとどけする。(Y)